

再評価結果（平成30年度事業継続箇所）

担当課：道路局国道・防災課

担当課長名：村山 一弥

事業名 一般国道201号 <small>かわらかくふく</small> 香春拡幅	事業区分 一般国道	事業主体 国土交通省 九州地方整備局
起終点 自：福岡県田川郡香春町大字鏡山字カラ川 至：福岡県田川郡香春町大字鏡山字荒堀		延長 2.1km
事業概要 香春拡幅は、国道201号の交通混雑の緩和や交通安全性の向上、物流の効率化による地域産業の支援等を目的とした事業である。		
H20年度事業化	H一年度都市計画決定 (H一年度変更)	H24年度用地着手
H28年度工事着手		
全体事業費	約61億円	事業進捗率 26%
計画交通量	22,800～26,900台/日	
費用対効果 分析結果	B/C (事業全体) : 1.1 (残事業) : 1.8	総費用 (残事業)/(事業全体) : 37/59億円 事業費 : 32/54億円 維持管理費 : 5.2/5.2億円
	総便益 (残事業)/(事業全体) : 68/68億円 走行時間短縮便益 : 52/52億円 走行経費減少便益 : 15/15億円 交通事故減少便益 : 0.88/0.88億円	基準年 : 平成29年
感度分析の結果 【事業全体】交通量 : B/C=1.1～1.2 (交通量 ±10%) 事業費 : B/C=1.1～1.2 (事業費 ±10%) 事業期間 : B/C=1.1～1.2 (事業期間±20%)		
【残事業】交通量 : B/C=1.7～2.0 (交通量 ±10%) 事業費 : B/C=1.7～2.0 (事業費 ±10%) 事業期間 : B/C=1.7～1.9 (事業期間±20%)		
事業の効果等 ①交通混雑の緩和 ・走行性の向上による交通混雑の緩和及び旅行速度の向上 ②交通安全性の向上 ・交通混雑の緩和による交通安全性の向上 ③産業振興の支援 ・北部九州自動車産業の生産性向上を支援 ④医療施設までのアクセス改善 ・第三次救急医療施設（飯塚病院）への救急搬送の支援及び救急搬送時間短縮による救命率の向上 ⑤生活環境の改善 ・自動車の走行性向上による環境への影響低減（CO ₂ , NO ₂ , SPM削減）		
関係する地方公共団体等の意見 香春町をはじめとする8市20町1村で構成される①筑豊横断道路建設促進期成会（会長：飯塚市長）、国道201号及び国道322号沿線の1市6町1村で構成される②田川地域国道整備促進期成会（会長：大任町長）等により早期整備の要望を受けている。（①平成29年8月、10月、②平成29年8月）		
県の意見 一般国道201号は、福岡市から筑豊地域を東西に横断し、京都郡苅田町に至る広域的な幹線道路であり、福岡県北部地域の交流、物流の一翼を担う道路である。 香春拡幅は、現在福岡県が実施している一般国道322号香春大任バイパスの整備と相まって、筑豊地域と他地域との交流促進や産業支援の効果が大きい。 従って、「対応方針（原案）」案のとおり事業を継続すべきと考える。 今回、構造形式の見直し等で、事業費が増となっており、今後はコスト縮減に努めていただきたい。 なお、今後とも、一般国道322号香春大任バイパス事業と調整を図りながら、安全かつ円滑な事業推進をお願いしたい。		

事業評価監視委員会の意見

審議の結果、事業継続。

事業採択時より再評価実施時までの周辺環境変化等

沿線地域の人口は減少傾向。沿線地域の一世帯あたりの自動車保有台数は福岡県及び九州全体よりも多い。当該区間の交通量は横ばい。

事業の進捗状況、残事業の内容等

平成20年度に事業化、用地進捗率70%、事業進捗率26%（平成29年3月末時点）

事業の進捗が順調でない理由、今後の事業の見通し等

地元や関係機関との協力体制のもと、今後も引き続き残工事等の事業進捗を図っていく。

施設の構造や工法の変更等

- ・ 橋梁構造の見直し、歩道橋の現況機能復旧、地盤条件の変更による構造見直し
- ・ 新技術・新工法の積極的な活用及び建設副産物対策により、着実なコスト縮減に努める。

対応方針

事業継続

対応方針決定の理由

以上の状況を勘案すれば、事業の必要性、重要性は変わらないと考えられる。

事業概要図



※総費用、総便益とその内訳は、各年次の価額を割引率を用いて基準年の価値に換算し累計したもの。

※総費用及び総便益の値は、表示桁数の関係で内訳の合計と一致しないことがある。